

令和4年度 洛中小学校 学校経営方針

■令和4年度 学校教育の重点 ～グランドデザイン～

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

3つの姿

広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生や社会を創造できる。

様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる。

多様な他者と生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる。

＜全教職員で進める学校園づくり 5つの柱＞

① いのち

子どもの命を守り切る。

② よりそい

多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める。

③ つとめ

教職員の職責を自覚し、研鑽することで教育の質を高める。

④ ひろがり

カリキュラムマネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現する。

⑤ つながり

校種間連携・接続により子どもを支える。

＜「生きる力」を育む 15の取組＞

【 確かな学力 】

- ① 社会とのつながり・接続を実感できる授業への改善
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実
- ③ 探究的活動を通じた、主体的・対話的で深い学びの実現
- ④ グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成
- ⑤ LD等支援の必要な子どもの学力向上

【 豊かな心 】

- ⑥ 道徳教育の充実
- ⑦ 伝統や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実
- ⑧ 規範意識の育成
- ⑨ 多様性を理解する姿勢の涵養
- ⑩ 支え合い高め合う集団作りの推進と絆づくり

【 健やかな体 】

- ⑪ 運動やスポーツの実践と体力の向上
- ⑫ 保健教育の充実
- ⑬ 飲酒・喫煙・薬物に関する指導
- ⑭ 安全教育の充実
- ⑮ 食に関する指導の推進

令和4年度 重視する視点

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める。

日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る。

自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む。

■令和4年度 洛中小学校の教育目標と教育構想

<小中一貫教育目標> ～よんきゅう絆プロジェクト～

未来を拓き、しなやかに生きる子どもの育成

<学校教育目標>

夢に向かって挑戦し、粘り強く頑張る子の育成
～豊かに学び、未来にはばたく～

<めざす子ども像>

知

広く正しく、
共に学ぶ子

- ・学習規律を身に付けている。
- ・テキストを正確に読み取る読解力と自分の考えを正確に伝える表現力を身に付けている。
- ・自ら課題を設定し、調べ、解決するために必要な学習スキルを身に付けている。
- ・友達と協働し、多様な見方・考え方に触れ学びを深める。

徳

やさしく美しく、
共に進む子

- ・仲間と共によりよい学校生活の実現に向けて協働する姿勢を身に付けている。
- ・思いやりの心、生命尊重の心、感謝する心を大切にする。
- ・障害や多様性についての正しい理解と認識を深める。
- ・いじめを許さない心の強さをもつ。

体

元気にたくましく、
共に励む子

- ・心身の健康を保つことがよりよい生活の土台であることを理解し、その維持・増進に資する運動、食事、休養など適切な生活習慣を身に付けている。
- ・生命を守るための実践的な判断力を身に付けている。

<めざす教職員像>

・一人一人の子どもに温かく寄り添う教職員

対話を通して一人一人の子どもの願いと困りをつかみ、その実現や解決に向けて指導力を発揮することで、子どもが安心して自分のよさや可能性を伸ばしていける環境を整える。

・自らの指導力向上に努め、子どもの豊かな学びを実現する教職員

生涯にわたる学習者の育成を目指して、授業を中心にわかる喜びや学び合う楽しさが実感できる教育活動を展開できるように常に自己研鑽に取り組む。

・子ども・保護者・地域の願いを実現するために努力する教職員

町衆の伝統を受け継ぐ地域の中で育つ子どもを預かっていることを自覚して教育活動を進めるとともに、保護者・地域に応援してもらえるよう誠実な対応と情報発信に努める。

<めざす学校像>

安心の場(基盤)

支持的な人間関係に支えられ、すべての子どもがのびのびと自分の良さを発揮できる場所

成長の場

学力が付き、自信を育み、成長を実感する場所

期待の場

新しい知と出会い、学びの楽しさを感じる場所

◇具体的な取組

*全ての子どもに学力と人間関係力をつける。

- 授業研究を柱とした学校…学習規律の徹底と支持的な学習集団作り。授業改善を積極的に行う。
- チームとして協働的に取り組む…めざす子ども像を共有し、知恵を出し合って取組を進める。
- 子どもの姿を語り合う…子どもの成長と課題を常に共通理解し、指導の方向性を共有する。

1. 「確かな学力」の育成

*授業で子どもを育てる

☆「もっとも指導の届きにくい子に届く授業は、全ての子の学力を向上させる。」という考えに立ち、「焦点化児童」を設定し、授業を改善する。

☆授業改善の方向

- ・わかる授業・考える授業⇒主体的な学びのプロセスの定着 GIGA端末の活用
- ・みんなで学ぶ楽しさを実感できる授業⇒主体的・対話的で深い学びの実践
算数科を中心とした研究推進
- ・指導すべきは指導しきる⇒学習のめあてを明確にした指導 適切な時間配分

*家庭学習の定着⇒主体的な学びにつながる自学自習の習慣化。授業との連動

*各種テストでの実態をふまえた取組⇒個の学力分析 課題を明確にした授業構想

*問題解決的な学習と探究活動の充実⇒つけたい力を意識した総合的な学習

2. 「豊かな心」の育成

*すべての教育活動を通して規範意識と社会性を育む

*どの子ども安心して過ごせる学級経営⇒「子どもの行動の裏には何らかの原因や理由がある」と考え、決めつけた指導はしない。子どもの声に耳を傾ける。いじめ・不登校対策委員会の実働。

*児童会活動や縦割り活動の中で、個に応じた役割を果たすことで自己有用感を高める

*挨拶と清掃活動の徹底⇒子どもは大人のしていることを見て育つ。大人がいい見本に。

*道德教育の充実⇒特別の教科 道德でねらいとする道德的価値を明確にした授業実践を積み重ねる。体験活動や他教科と関連をもたせる。

*多様性を理解する姿勢の涵養⇒人権教育を基盤とした違いを認め合える関係づくり

*地域を愛する子どもの育成⇒地域を学びの場に 地域との積極的な交流を図る

3. 「健やかな体」の育成

*体育科授業や遊びを通して体力の向上を図る。

*「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の確立⇒見えない学力につながる

*食育を推進し、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。

*自らの身を守ることができる子を育てるための避難訓練の充実と地域ぐるみの学校安全の推進。

*さまざまな体験活動、スポーツ、部活動などを通して体を動かすことの楽しさを味わわせる。

*安全指導や避難訓練等を通して、命を守るために適切に判断し、行動できる力を養う。

＜育てるべき資質・能力＞
課題解決能力・コミュニケーション力